保護者の皆さんへ

お子さんの学力向上のために大切なこと

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

そうした願いが込められている学習指導要領の趣旨を実現するために、東京都教育委員会では、小学校第4学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、子供たちの学習意欲や学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を把握し、分析しています。

各学校では、この調査結果を活用し、子供たちの学習に関する意識の状況を明らかにし、日々授業改善に取り組んでいます。

この「お子さんの学力向上のために大切なこと」では、調査結果を踏まえ、お子さんの学習や生活について御家庭で取り組んでいただきたいことを紹介しています。ぜひ御活用いただき、お子さんの学びへのより一層の御支援をお願いいたします。

学びを支えるスクラム

令和4年3月　東京都教育委員会

1 調査結果(個人票)の見方

令和３年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、調査に回答した小学校第４学年から中学校第３学年の児童･生徒の皆さんに､次のような個人票を返却しました。

「1 授業の内容はどのくらい分かりますか」と「2 教科の学習はどのくらい得意ですか」

お子さんは、授業の内容について、どのくらい理解していると考えているでしょうか。また、各教科の学習について､どのくらい得意であると感じているのでしょうか。

お子さん自身による自己評価の結果から、自分の学力や学習状況をどのように捉えているかについて確認することができます。

「3 学習する理由は何ですか」

自分が学習する理由について、お子さんがどのように考えているのかを確認することができます。

「4 どのように学習を進めていますか（教科全体）」

学習の進め方には、どのような特徴があるのでしょうか。

「ねばり強く進める」､「工夫しながら進める」､「対話しながら進める」､「理解しながら進める」という四つの点から、その特徴を捉えることができます。

「5 どのように学習を進めていますか（国語）」「6 どのように学習を進めていますか（算数）」

漢字の学習は､どのように取り組んでいるのでしょうか。

算数や数学の用語や公式の学習は、いかがでしょうか。

調査結果と、普段取り組んでいる小テストや単元テスト、学力調査等の結果とを比べながら､「どのような学習の進め方が、成果や課題につながっているのか」について、お子さんと一緒に考えることができます。

「7 学校以外でどのように学習を進めていますか」

学校以外で、どのように学習に取り組んでいるのでしょうか。自分で計画を立てて学習をしているでしょうか。

調査項目に示された内容は、家庭学習の改善を図るための参考にすることができます。

※この個人票は、小学校第４学年から小学校第６学年までの内容を示しています。

2 授業の理解と関係の深い学習の進め方

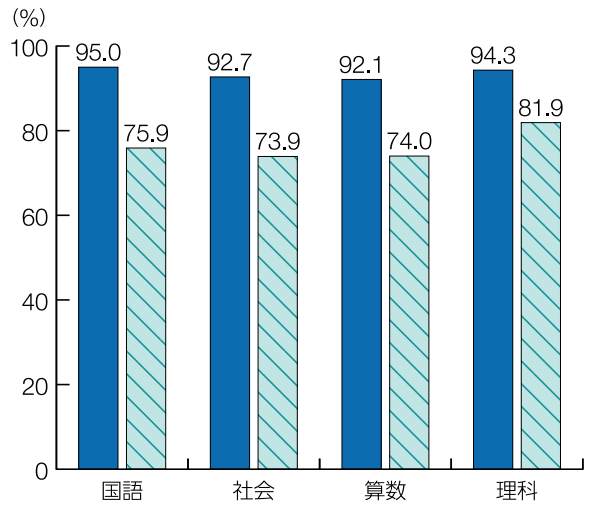
令和３年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」児童・生徒調査の結果から

※小学校第４学年から第６学年までの児童の回答結果をまとめたもの

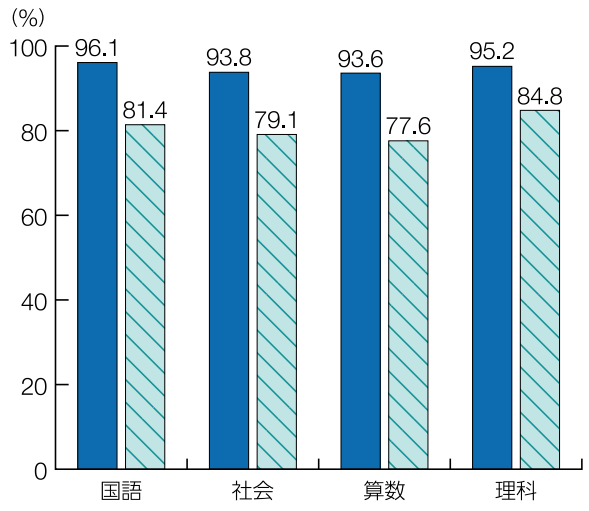
次のように学習を進めている子供ほど、授業の内容をよく分かると感じる傾向がみられます。

- ◆ 大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。
- ◆ 問題の答え合わせをするときに、答えが合っているかどうかだけでなく、その問題の考え方も確かめている。

大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにすることと授業の理解との関係



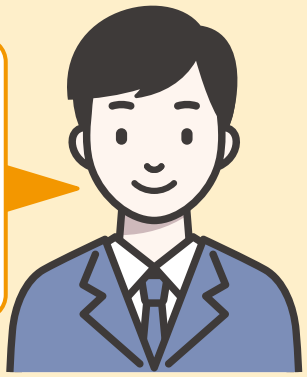
答えだけではなく、考え方も確かめながら学習することと授業の理解との関係



■ その学習の進め方をしている児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合
▨ その学習の進め方をしていない児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合

※その学習の進め方をしている児童 ------ それぞれの学習の進め方について、「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童
※その学習の進め方をしていない児童------ それぞれの学習の進め方について、「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童
※授業を分かると感じている児童 ---------- 各教科の授業の内容について、「よく分かる」又は「どちらかといえば分かる」と回答した児童

家庭で学習するときも、大切な言葉や公式の意味を理解して覚えたり、テストで間違えた問題を振り返って、その問題の考え方などを確かめ、理解したりすることが重要です。
お子さんの学習の様子を見ていただき、自分で効果的に学習を進められるように、声を掛けてみましょう。



次のページからは、お子さんが、効果的な学習の進め方を身に付けられるように、家庭で取り組むことができる支援の例を紹介します。

3 お子さんの学習を家庭で支援する取組例

国語
漢字の学習

お子さんがテストやドリルで漢字を書き間違えたときは、どこを間違えたのかを自分で確かめられるように、声を掛けてみましょう。

どこを間違えたのかな？

本当は「のぎへん」で書くのに、僕は、「いとへん」にして「績」と書いてしまったよ。

誤答でも、自分なりの理由があって解答していることがあります。同じような間違いを繰り返さないようにするために、なぜ、そのように答えたのかを説明させ、お子さんの考え方を知ることが大切です。

なぜ、「罪」と書いたの？

「つみ」という読み方から、「罪」という漢字が思い浮かんだから。

「令和３年度全国学力・学習状況調査」
小学校国語 3 三(1)の問題

丸山さんは、習っている漢字がひらがなになっていた――部を漢字に書き直すことにしました。

次の――部を漢字でていねいに書きましょう。

また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方につみ重ねられています。

正答……積み
誤答の例…罪、績み

平均正答率	
東京都	57.0%
全　国	54.4%

似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめたり、漢字の部首の意味も考えながら覚えたりできるように、声を掛けてみましょう。

「績」って、どういう意味の漢字かな？漢字辞典で調べてみよう。

なるほど、「❶糸をつむぐ」という意味があるんだね。なぜ、「いとへん」か分かったよ。

どういう熟語で使われているかな？

「成績」という熟語で使っているよ。このときの「績」は、「❷仕事の結果」という意味なんだね。

漢字辞典の記載例

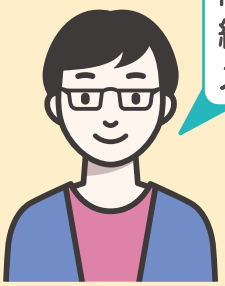
糸11画
【績】
17画 5年 音 セキ 訓 ―
筆順 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
成り立ち 糸と、音を表す責（セキ）（つなぐ）とを合わせた字。糸をよってつなぐ（つむぐ）という意味を表す。
意味 ❶糸をつむぐ。例 紡績（ぼうせき） ❷仕事の結果。てがら。例 成績

禾11画
【積】
16画 4年 音 セキ 訓 つむ・つもる
筆順 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾 禾
成り立ち 禾（こくもつ）と、音を表す責（セキ）（集める）とを合わせた字。こくもつを集めてつみ重ねるという意味を表す。
意味 ❶つむ。つもる。つみ重ねる。例 集積、積雪 ❷ひろさ。かさ。例 面積 ❸かけ算の答え。
【積雪】セキセツ 雪がつもること。ふり積もった雪。

「積」には、穀物を集めて積み重ねるという意味がある。だから、穀物を表す「のぎへん」なんだね。「雪が積もる」という意味の「積雪」という熟語がある。この問題では、「のぎへん」の「積」を書くことがよいのだと分かったよ。

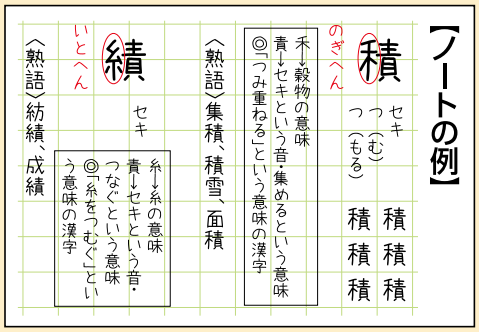
漢字辞典の使い方は、小学校第４学年の教科書でも扱っていますので、使い方が分からない場合は、教科書で確認するとよいでしょう。学習の質を高めるためにも、辞書や辞典を利用して調べる習慣を身に付けられるとよいですね。

テストやドリルで間違えたときは、間違えた漢字を学習し直すことで、学習内容を定着できるように声を掛けてみましょう。

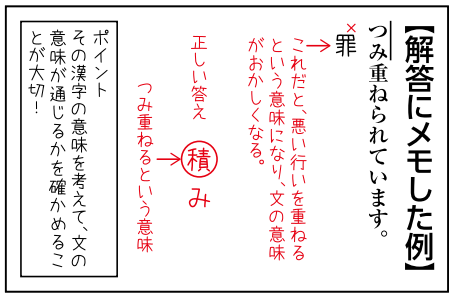


間違えた漢字は、正しく書けるように練習しておこう。調べて分かったこともメモしておくとよいね。

ノートにまとめたら、漢字の意味や使い方をよく理解できたよ。



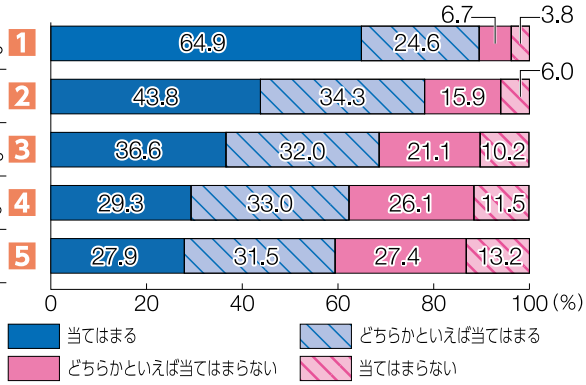
同じような間違いを繰り返さないようにするための教訓を自分なりの言葉でまとめ、書き留めておくことも、学習の質を高めることにつながります。



同じような間違いをしないように、自分でポイントをまとめたよ。

これからは、意味を考えて漢字を書くようにすると間違えないね。

コラム 東京都の小学生は漢字の学習をどのように進めているのでしょうか。



令和３年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」児童・生徒調査の調査項目５(1)～(5)より

それぞれの学習の進め方に肯定的に回答している児童に着目すると、1 や 2 に比べると、3 や 4、5 に取り組んでいる児童は少ない傾向がみられます。

中学年以降は、新たに学習する漢字が 1 年間に 200 字程度と多くなり、画数が多く抽象的な意味を表す漢字も増えます。そのため、1 や 2 のように、字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、3 のように、学習した漢字を確実に書けるようにするための工夫や、4 や 5 のように、漢字の意味や部首など、漢字への理解を深めるための学習を行うことが大切になってきます。

漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにするためにも、1 ～ 5 の学習の進め方をバランスよく身に付けることが重要です。

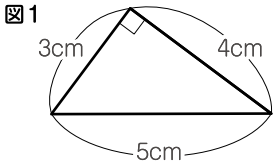
4 お子さんの学習を家庭で支援する取組例

算数
算数の言葉や公式の学習

「令和３年度全国学力・学習状況調査」小学校算数 2(1)の問題

図1の直角三角形の面積は何㎠ですか。
求める式と答えを書きましょう。

図1



正答 -------- (式) 3 × 4 ÷ 2 = 6　(答え)6㎠　※乗数と被乗数を入れ替えた式なども許容する。

誤答の例--- 3 × 4 × 5 = 6 0 (㎠)、3 × 4 = 1 2 (㎠)、
5 × 4 ÷ 2 = 1 0 (㎠)、5 × 3 ÷ 2 = 7.5 (㎠)等

平均正答率	
東京都	62.0%
全　国	55.1%

お子さんが、テストやドリルで間違えたときは、どこで間違えたのかに気付くことができるような声掛けをしてみましょう。

どう考えて答えを出したの?

三角形の面積の求め方について、教科書にはどのように書いてあるかな?

【教科書の例】
三角形の面積は、(底辺)×(高さ)÷2で求められます。

ドリルやテストで、図に書いてある数をかけるとうまくいくことが多かったから、3×4×5=60（㎠）としたよ。

三角形の面積は、この公式を使えば、求められたんだね。

用語や公式を理解できていないときは、教科書などで確認させるとよいでしょう。

間違えた問題を学習し直すことで、学習内容を定着できるように声を掛けてみましょう。

三角形の面積の求め方が分かったから、もう一度やってみよう。

どうしてそう考えたの?

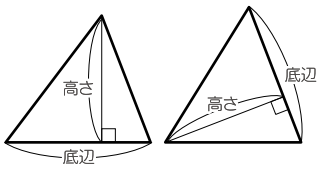
うん。（底辺）×（高さ）÷2だから、5×4÷2=10（㎠）だね。

「底辺」は図の下側にある辺だと思ったから5㎝、高さは3㎝の辺と4㎝の辺のどちらか迷ったけど、長い方の4㎝の辺を選んだよ。

教科書には「底辺」と「高さ」について、どのように書いてあるかな?

【教科書の例】

三角形では、1つの辺を底辺とするとき、その辺と向かい合った頂点から底辺に垂直にかいた直線の長さを高さといいます。
三角形は、底辺をどこにするかで高さが決まります。



そうか。この問題だと、3cmの辺と4cmの辺が垂直だ。
3cmの辺を底辺とすると、高さは4cmになるし、
4cmの辺を底辺とすると、高さは3cmになるんだね。

自分なりに理解できた後は、学習した言葉を使って自分の考え方を説明できるように、声を掛けてみましょう。

次からどのようなことに気を付けて
三角形の面積を求めればいいかな?

そうね。忘れないように
何かできないかな?

三角形の面積を求めるには、
底辺と向かい合った頂点から底辺に垂直に
かいた直線を見付けて、
（底辺）×（高さ）÷2をするようにするよ。

忘れないうちにタブレットでまとめたよ。

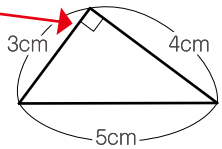
【児童が学習者用端末等にまとめた記述の例】

2 図1のような直角三角形があります。

（三角形の面積）=（底辺）×（高さ）÷2

底辺と向かい合った頂点から
底辺に垂直にかいた直線の長さ!　注目

図1



（1）図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。
求める式と答えを書きましょう。

式　3×4÷2 =12÷2
=6

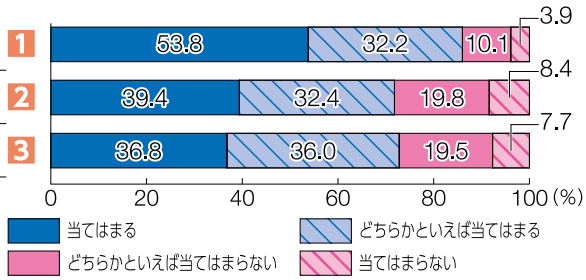
答え　6cm²

学習者用端末等に問題を読み込むことで、
大切なことを書き入れて保存することができます。
同じような間違いを繰り返さないようにするための
ポイントを自分なりの言葉でまとめ、
書き留めておくことも、学習の質を高める
ことにつながります。

コラム　東京都の小学生は**算数の言葉や公式の学習**をどのように進めているのでしょうか。

1 算数で学習する言葉や公式の意味を理解しようとしている。
2 算数で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。
3 算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。

令和３年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」児童・生徒調査の調査項目８(1)～(3)より



1 に比べて 2 や 3 のように学習を進めている児童は少ない傾向が見られます。算数の学習では、自分では言葉や公式の意味を理解したと思っても、正しく説明できないことがあります。学習した言葉を使って自分の考え方を説明することによって、理解がより深まり、学習内容の定着につながります。

中学年以降の学習では、それまでに学習した内容を基に、新しい概念を構成したり、新たな原理や法則を見いだしたりします。また、それらを適用しながら目的に合った問題解決を行う機会が増えます。

学習した算数の言葉や公式を活用して問題を解決できるようにするためには、3 のように、学習した言葉を使って自分の考え方を説明できるようにすることが大切です。

5 お子さんとの会話を充実させるポイント

伝えたい内容を言葉で表現できるようにしたいとき

お子さんが伝えようとしていることを受け止め、「～ということは、○○だね。」、「つまり、○○ということかな。」と要約したり、言い換えたりするなど、表現のヒントを示しましょう。

お子さんの伝えようとする気持ちを大切にしながら、話の内容を要約したり、別の表現に言い換えたりするなどして、お子さんが自分の伝えたい内容にふさわしい表現を考えられるようにすることが大切です。

難しい課題を解決できるようにしたいとき

お子さんの様子を見ながら、「どうしたらいいと思う。」、「なぜうまくいかないのかな。」などと解決の見通しをもたせたり、それまでの取組を振り返らせましょう。

保護者の方が、すぐに解決方法を示すのではなく、解決への見通しをもたせたり、うまくいかない原因を振り返らせたりするなどして、お子さんが自分で解決できるようにすることが大切です。

筋道立てて自分の考えを説明できるようにしたいとき

「どうしてそう考えたのかな。」、「それは、どこから分かるのかな。」など、お子さんの考えたことについて、そのように考えた理由や根拠を確かめましょう。

保護者の方が納得できたとしても、他の人も同じように納得できるとは限りません。当たり前と思えることでも、理由や根拠を確かめるなどして、お子さんが自分の考えを筋道立てて説明できるようにすることが大切です。

お子さんが、保護者の方に安心して自分の考えを伝えられるように、以下のようなことにも気を付けてみましょう。

- □ お子さんの顔を見て、会話をしましょう。
- □ うなずいたり、受け止めの言葉を発したりするなど、積極的に聞いている姿勢を示しましょう。
- □ お子さんの話を、最初から否定しないで聞きましょう。
- □ お子さんの話を、最後までさえぎらずに聞きましょう。

令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ

調査実施日　**令和４年５月16日（月）**から**令和４年６月24日（金）**までの間
（詳しくは、後日、学校からお知らせがあります。）

調査対象

都内全公立小学校	第４学年～第６学年
都内全公立中学校	第１学年～第３学年
都内全公立義務教育学校	第４学年～第９学年
都内全公立中等教育学校	第１学年～第３学年

右の二次元コードから、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のホームページを閲覧することができます。

調査内容　児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を調査

調査方法　児童・生徒用のパソコンやタブレット端末を用い、ウェブシステムを通じて回答